

(刻字)

江府彫物官工

野川法眼

平朋郷 ㊦ ㊧

身そぎする川風捨て深山もり

古橋所

山彦

ひとつ消へふたつ殖けり飛ほたる

前原

金莖

竹は皆雪に伏見の鐘近し

田木野井

如極

焼海苔やこころのうちか年の春

江戸京橋

保滴

打水やいま降空と知れながら

高根

三明

荷船まで一棹すゝむ恵方かな

千葉

雪暎

近く聞水音涼し坊どまり

全

亀浦

舟小屋を麓末に見せる柳かな

保品

俊久

汐みちて影のさだまる柳かな

東金

宮戸

一声を耳にのこしてほとゝぎす

八橋

開扇

鳥居から奥深ふなる茂りかな

全

松林

ふりむいてまた見直すや秋の山

八木ヶ谷

湧谷

少しづゝ流るゝ水や啼蛙

妻丸

桜五

老楽に田毎を拾ふ落穂哉

全

可昌

ひかえたる酒の中にも落葉かな

全

盃三

杉枝のかげにかくれずほとゝぎす

全

勘梅

朝寒やかまどゝゝの賑はしき

全

其白

啼蛙夜の寝心やかゞり船

皆音

菅翠

渡し場や風を背負ふて呼寒さ

全

儀舟

どちらから見ても角なき柳かな

サキ沼

柳風

稲妻やしかとも見えぬ船のむき

下戸

秀山

ありゝゝと月の見えるにくれ遅し

市川

泉舛

姫の来た里からも来る田植かな

ケミ川

素人

そよゝと青東風寒し須磨の宿

船ハシ

光菅

おもしろき世のはつ鴈や月の梅

江戸市ヶ谷

良川

松斗りかわらぬ色のかれ野かな

高根

葉草

葉のちりて跡に数あり残る柿

ハタ

只彦

さまざまのむしの音聞て寝ぬ夜かな

前原

梅枝

段々に青みさえけり若葉やま

全

舛清

葉桜や朝降雨にかよふと

全

十條

若竹に注連をかけたたり船おろし

コテ橋

塙輪

補助

年毎に御代を祝ふや松かさり

フチサキ

月台

抱た子に引もどされしすみれかな

前原

一与

朝露のあがるをまて揚ひばり

全

貞泉

あけ月の影踏ながら早苗とり

全武石

富来

二の宮の森の茂りやほとゝぎす

上高野

三省

礼のある鳩は鳥なり桐の花

原宿

大武

ひろ沼やかゝる嵐に浮寝鳥

妻丸

静丸

野の家は花の夕日を抱えけり

武石

兔道

盃に移りてあをし春の山

全

飛音

あけ残る星の光りや不如帰

全

舟月

黄鸝やもどりに聞廻り道

坪井

二蝶

たそがれて友まつのみや夏の月

全

松月

畑中に見ゆる暮や冬の月

全

梅流

見おぼえた峯の松皆霞けり

全

文溪

葉のゆれのとまりてさくやかきつばた

高根

明儀

人を見てまた黄鸝の啼直す

大穴

五総

眼に見ゆるほどはふかねど秋の風

ハタ

自得

夜の風の音ふとちらす裏の萩

田木ノ井

祝花

寝直りて見ても中々夜寒かな

全

花林

深き野の道巾せばし萩の花

正伯

完倉

春風に吹れてなびく柳かな

全

竜宗

ふかき野に一段高し女郎花

全

屏寿

名月やとかくにはやき鷄の声

言ハシ

米山

森に来て道の暑さをわすれけり

全

二橋

郭公初音を宵のくもりかな

ハタ

未生

帆の影の見えて涼しき入江かな

馬加

木々

酔ほどはのんで居られぬ新酒かな

全

正中

居立する苦にもならぬや花の春

全

花舟

月といふ月はまだ見ず竹の穂

全

麦山

かれ蓼の茎のみ長し冬河原

長作

花山

笛の音をたどる深山や夏神楽

全

鷺山

寝心や窓からまれて蚊屋の月

サキ沼

広弥

灯の水に移りて涼し船の上

全

如月

菜の花の照り眼にしむや雨あがり

妻丸

乙次

舟からも来る客のあり月の宵

久々田

霞塘

内庭に影いっばいや月の梅

田木ノ井

寿草

門先で用すむ客や麦の秋

全

平山

元日や放させたしなかくの鳥

妻丸

包有

柏掌のこもるひゞきや若葉山

前原

重古

向々にあくた火焚て夕しぐれ

大穴

雪屑

松斗りのつぼり高きかれ野かな

全

竹勢

約束の人ばかりなり後の月

ハタ

五外

催主

汲て行跡も濁らぬ清水かな

田木ノ井

鉄賀

風よりも涼しき庵よもりのうち

正伯

林中

鈴の緒にあたってそれる落葉哉

大久保

雨董

浜風の来るもゆかしや山ざくら

馬加

祭年

春もまだ冴てなのみぞ庵の月

大穴

八十二
その女

舷をうって

竜尾園

気味よし夏の雨

香城

移る燈の雨に

孤山堂

ながるゝ柳かな

卓郎

文久三年癸亥八月